



ワークショップの様子



川の模型を作っている様子



できあがった模型

大手川を周辺の地形や利用の形を考^{かんが}えて、大きく下流・中流・上流に分けて考^{かんが}えました。そして、それぞれの場所^{ばしょ}に適^{てき}したイメージや形態^{けいたい}で検討^{けんとう}をしました。

ワークショップは、あまり回数^{かいすう}を行^{おこな}ってもまとまり^{わる}が悪くなることから、いずれも3回^{かい}の実施^{じっし}で開^{ひら}きました。

ワークショップとは：さまざま^{たちば}な立場^{ひとびと}の人々^{あつ}が集^あまって、自由^{じゆう}に意見^{いけん}を出^だし合^あい、互^{たが}いの考^{かんが}えを尊重^{そんちょう}しながら、意見^{いけん}や提案^{ていあん}をまと^あめ上^あげていく場^ばです。

ワークショップでは、まず現地^{げんち}の調査^{ちょうさ}を行^{おこな}い、川^{かわ}の特^{とく}徴^{ちゆう}や周辺^{しゅうへん}の状^{じゆう}況^{きよう}、どのよう^{りよう}に利用^{りよう}されているか^かな^かどを確^{かく}認^{にん}します。次^{つぎ}に、利用^{りよう}や整備^{せいび}に当^あた^あつての課^か題^{だい}や問^{もん}題^{だいてん}点^{てん}など^{など}を話^{はな}し合^あいます。

そして、どのよう^{かいけつ}にそれ^{かたち}を解^{りよう}決^{のぞ}するか、どのよう^{はな}な形^あや利用^あが望^{はな}まれるか^あな^あどを話^{はな}し合^あい、それ^すをまと^すめ、イメ^すージ^{もけい}図^{もけい}や模^ぐ型^{たいてき}など^{かたち}で、より具^{のこ}体的^{のこ}に形^{のこ}とし^{のこ}て残^{のこ}します。

土木事務所^{とほくじむしょ}は、そのワークシ^{けんとう}ョップ^{けんとう}で検^{けん}討^{とう}してできあ^すが^すったイメ^すージ^{もけい}図^{もけい}や模^す型^{もけい}を基^き本^{ほん}とし^{して}、具^ぐ体的^{たいてき}に工^{こう}事^じのた^{こう}め^じの詳^{むす}しい設^{むす}計^{むす}図^{むす}を作^{むす}り、そ^{して}、工^{こう}事^じに結^{むす}びつ^{むす}けてい^{むす}く^{むす}ので^すす。

このよう^とな取^くり組^{おこな}み^{おこな}を行^{おこな}うこ^{じゅう}と^{みん}で、住^{あい}民^{ちやく}に愛^う着^{かせん}の生^{せい}ま^びれる河^{ちか}川^{ちか}とし^ての整^{せい}備^びに近^{ちか}づく^{ちか}ので^すす。いつま^{みな}でも皆^{あい}さん^おに愛^おさ^おれる「大^お手^お川^お」に^おし^おたい^おと思^おい^おます。

ワークショップでの取り組み

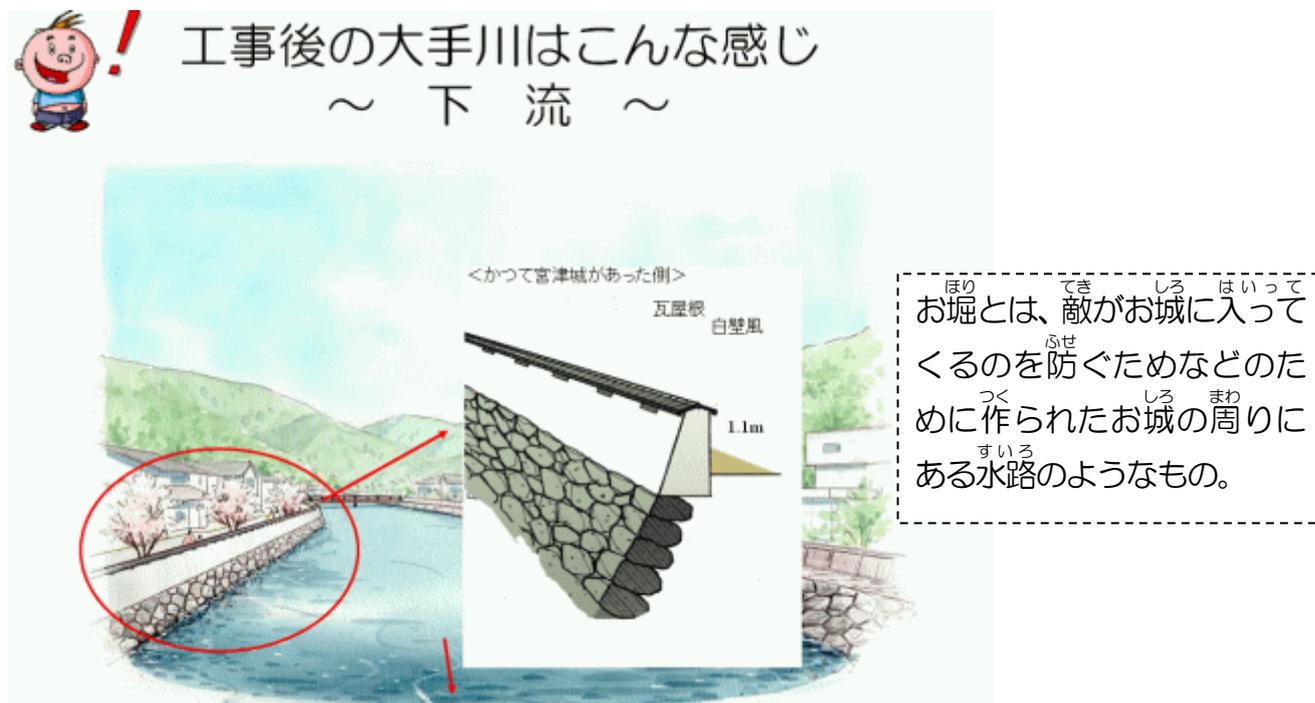
ワークショップ (その1)

下流部では、「**大手川の護岸を考えるワークショップ**」という名前のワークショップを

行い、皆さんで話し合ったことを整備イメージにしてまとめていただきました。

出来上がったのが、下のイメージ図です。

下流部の整備イメージ



下流部では、大手川が宮津城のお堀であったことなどから、上の絵にあるように、右岸側

は白壁が建ち並び、お堀のイメージを出します。ゆっくり散策できるようにします。

ワークショップ (その2)

中流部では「**大手川に『自然と親しむ 空間』を作ろう**」ワークショップ」という名前の

ワークショップを行い、曲がりくねった区間の改修によって残る元の河川部分の

有効利用を考えました。

生き物にも配慮した川とふれあえる空間の整備について、皆さんで意見を出し合っていました。

したすみなはなあきちゅうりゅうぶせいびす
下のイメージ図が、皆さんで話し合っで決めた中流部の整備イメージ図です。

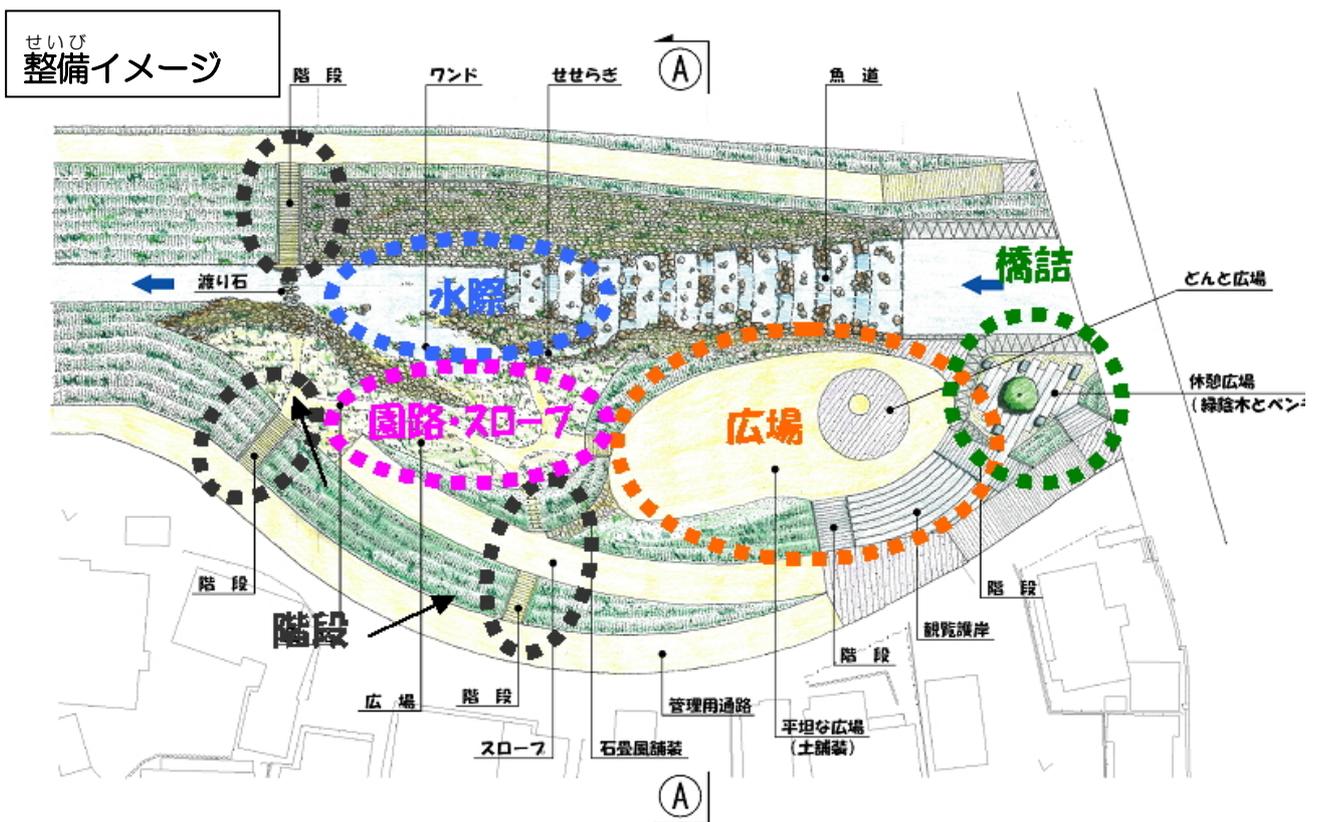
このような形にすることで、魚などの生き物と入れあえる水辺として、みなさんに親
しんでいただくと考えています。



ながれはやおそ
流れの速いところ、遅いところが
でき、変化に富んだ形により、い
ろいろな生物が棲みやすくなります。
しぜんかんさつなどに適した場所になる
と考えられます。

ワークショップ (その3)

じょうりゅうぶかみみやつちく
上流部 (上宮津地区) では、「**おおてがわはぐくむかわ**
大手川『みんなで育む!川づくり』ワークショップ」とい
う名前のワークショップを行い、「地域で創り、育てる川づくり」を目標に、川に親し
める空間整備を考えました。



かんきょう きくば 環境への気配り

かんきょう きくば ひと こうすい たい あんぜん
環境へ気配りということでは、人が洪水に対して安全であればよいかということでは
なく、さかな などにもやさしい川でなければということです。

また、けいかん (すぐれたけしきのこと) にもきくば されていなければなりません。

そもそもかせん じんこうてき であってはいけないのです。ゆたかな しぜん かんきょう まも
そもそも河川は人工的であってはいけないのです。豊かな自然の環境を守ることは

たいへんたいせつ
大変大切なことなのです。さかな かく ばしょ かくほ ぶん せ ぶち ひつよう
魚の隠れ場所の確保も含めて、瀬や淵が必要です。

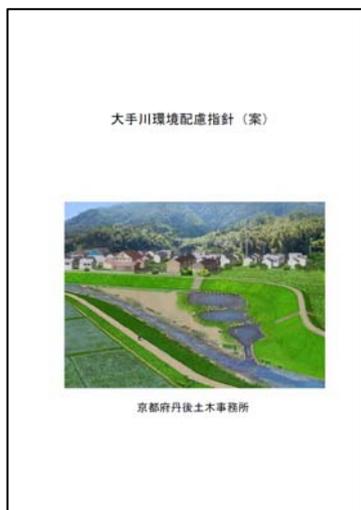
また、けいかんてき うつく のぞ
また、景観的にも美しいことが望めます。



せとは、つちなどがたまってあさ
瀬とは、土などが溜まって浅くなってい
るところで、図の赤い線のところです。
ふち かわ みすあ ぶんか
淵とは、川の水当たりなどで、深くなっ
ているところで、図の黄色の線のところ
です。
ふち さかな とり がいてき のが
淵では魚が鳥などの外敵から逃れた
り、また、せいちょう ば
成長の場となります。

おおてかわかいしゅう じつげん おおてがわかんきょうはいりよしん あん
大手川改修では、これらを実現するため、「大手川環境配慮指針(案)」というもの

さくせい けいかく た こうじ おこな うえ きくば さだ
を作成し、計画を立てる、工事を行う上で気配りすべきことなどを定めています。



おおてがわかんきょうはいりよしん あん
「大手川環境配慮指針(案)」
うつくしいかわ つく まも のこ
美しい川として、作り、守り残していくためには、
けいかく ひつよう かんが
しっかりした計画が必要と考えました。
こうじ すす いじ かんり おな
どのように工事を進め、どのように維持管理(同じ
じょうたい たもちつづけ まも のこ
状態を保ち続け、守り残すこと)していくべきかなど
き
を決めています。
こうじ ひと み
工事する人にも見てもらっています。
たんごどほくじむしょ み
丹後土木事務所ホームページで見ることができます。

大手川に棲む魚たち

大手川には、たくさんの種類の魚などが棲んでいますので見ておきましょう。

工事をするときには、生態系のことを考えて、これらの魚などが棲みやすいような形で

護岸などを作ることが必要となります。

河口の近くに棲むカニ・ヒトデ



モクスガニ

生まれてから4～5年は川で大きくなり、卵を産むために秋から冬は海に下ります。ハサミの長い毛は脱皮直後は白髪になります。



ケフサイソガニ

日本各地の内湾の川のそばで、石の多いところでみられます。オスのハサミにやわらかい毛が生えています。



キヒトデ

ヒトデまたはマヒトデともいいます。日本近海の浅い海や港の中で最も多く見られる種類です。

河口に棲む魚



ウグイ

日本各地の川の上流から下流に広く見られます。卵を産む時期、3本の赤い縦じまがみられます。川底のコケ、水中の虫などなんでも食べます。



マハゼ

日本各地の湾内や河口の砂泥上にみられます。寿命は1～2年です。大食いでなんでも食べるので釣りやすい魚です。汚い水に強く、都市の港でも見られます。



ヒイラギ

背中のトゲがヒイラギの葉に似ていることから、この名がつけました。アゴを“ギギ”とならすことから、宮津ではギチまたはギギと呼ばれています。体は又ルヌルした粘液を持っています。



ボラ
にっぽんかくち わんない かこう み
 日本各地の湾内や河口に見られます。
 大きさが名前が変わる出世魚で、関西ではハク、オボコ、スバシリ、イナ、ボラ、トドと大きくなります。
かわそこ た
 川底のコケなどを食べます。

アミメハギ
にっぽんかくち しげるば いわば
 日本各地の茂場や岩場にみられます。
おお
 大きくなっても6~7cmと小さいです。
よる かいそう
 夜は海草などをくわえて流されないように寝ます。

クサフグ
ないそう かわ どく も
 内蔵や皮などに毒を持ちます。
すな もぐ め だ
 砂に潜って目だけを出している姿を見ます。
すかた み
 6月の新月と満月、波打ち際で集団で産卵します。

おおてがわ
 大手川には、この他にもコイ、メダカ、セスジボラ、ウキゴリ、ゴクラクハゼ、ヌマチチブ、アイナメ、ネズミゴチ、ナマズなど、たくさんの種類の魚がいます。

府民参画の取り組み

たんごどほくじむしょ
 丹後土木事務所では、より良いまちづくりを進めるために、積極的な情報発信や

らみんさんかく と く すす
 府民参画の取り組みを進めています。

おおてがわかいしゅう せっきょくてき じょうほうはっしん らみんさんかく と く すす
 大手川改修でも積極的に情報発信と府民参画の取り組みを進めています。

ひとびと かわ さんかく らみんまんぞく え
 いろいろな人々が川づくりに参画していただくことで、より府民満足が得られるわけ

です。そのためには、いろいろな情報をできるだけ発信して知っていただくこと、そして、

ひとびと さんか しく たいせつ
 たくさんの人々が参加しやすい仕組みが大切です。

おおてがわ かいしゅう
 それでは、大手川で改修では、どのようなことをしているのでしょうか？

さんかく みな おも ふせい はんえい かたち あらわ
 参画とは、皆さんの思いをより府政に反映させる（形になって表れる）こと
さんか すこ い み
 です。参加とは少し意味がちがいます。